

そろばん等に思うこと

元 新潟県庁職員 小柴 昭彦

私は、2023年の八月に八十歳になりました。暗算を再び始めたのは、七十二歳の時に、近くにそろばん教室があり、昔、習った暗算に興味があったのがキッカケです。

現在もそろばん試験に参加していますが、暗算で、総合では初段、個別では、みとり暗算が貳段、かけ暗算が準貳段、わり暗算が初段です。また、そろばんの県大会にも参加しており、読上暗算で、昨年は三位、今年は四位でした。ただ、読上暗算を見ると、今の人達はレベルが上がっており、頼もしく感じています。

なお、私がそもそも、そろばんを始めたのは、小学四年生の時であり、中学二年で一級合格、高校一年の時に県大会で読上暗算を、ようやく優勝しました。

仕事は、二十三歳の時に新潟県庁に入職し、商工・教育・病院・企業誘致・税務・障害福祉等の職務を行い、三十六年間勤務し、五十九歳で退職しました。

また、大学時代から目指していた税理士と中小企業診断士の資格を試験等を通じてどうにか獲得し、その後は継続的に更新してきました。退職後、同僚達と懇親会を時々やりますが、彼らが言うのは「おまえのことは、仕事よりもそろばんに印象が残っている」と言われます。退職後は、病院や特別養護老人ホーム・障害者施設などに関心がありましたので、この病院等（職員千五百人程）を経営している理事長にお願いし経理部員として就職しました。この法人の中心は新潟県長岡市ですが、東京都新橋で特別養護老人ホーム、障害者施設等を運営していましたので、新橋へ行って職員

の人達とそろばん等を使いながら、収支状況等を検討したことを懐かしく思っています。その後、六十五歳で退職し、税理士、中小企業診断士の資格で「小柴福社会計研究所」として独立開業しました。

しかしながら、七十歳の時から高血圧や腰椎狭窄症などの病気に襲われ、独立で職務は難しいと考えました。そこで、この研究所をやめ、社会福祉法人等公益法人の監事や監査委員に専念することとしました。監事等の職務は、その法人の財務状態や仕事の状況をチェックすることが、本務であります。詳細に言いますと、公益法人の決算期や例月検査では、億円以上の収支計算書等で、そろばんと暗算でチェックしています。

仕事以外ですが、腰椎狭窄症などになった時、ふとしたことで「フレイル」という言葉を知りました。フレイルとは、筋肉等の虚弱ということです。それで私は健康管理として、自分の車をやめ、一日五千歩を目標に、趣味の英会話教室や社交ダンス並びにそろばん教室へ行く時は、バスに乗ったり杖をつけて歩いたりしています。この英会話教室ですが、外国人の先生と話す時、そろばんの事も話題になります。海外でのそろばんの普及状況および日本と中国のそろばんの違い等を楽しく話し合っています。

最後に、暗算の試験は引き続き参加したいと思い、練習しています。ただ、能力が弱くなって、全体的な底上げは難しいと思い始めています。そこで、かけ暗算はやや上昇するかと考え、かけ暗算を集中して練習しています。